

レーモンドホール

登録有形文化財



昭和26(1951)年に、旧三重県立大学図書館として、津市大谷町に建設された木造平屋建ての図書館である。昭和44(1969)年に旧三重県立大学の移転にともなって、保存されることになり、解体の上、現在地に移築された。その後、水産学部の食堂、生物資源学部の倉庫などとして利用されたが、平成26(2014)年の耐震補強工事の実施を機に、レーモンドホールとして開館した。

設計者はアントニン・レーモンド。日本に近代建築をもたらした立役者の一人で、東京女子大学(1934)や南山大学(1964)のキャンパスを手がけているほか、群馬音楽センター(1961)など、評価の高い名作が多い。本学のレーモンドホールは、「戦後再来日したレーモンドが設計した、小径の丸太材を構造材とする一連の木造建築の中でも最も早期の作品となり、戦後の木造建築デザインの先駆的な位置を占める貴重な作品」※であるとして、平成14(2002)年に登録有形文化財に指定された。

※文化財登録原簿の記載より引用

(出典 三重大学 キャンパスマスタープラン2018)

レーモンドホールについて詳しくは、
[ここをクリック](#)